



はないちもんめ 1958年

いわさきちひろ 生誕地・武生 ピエゾグラフィ展

# あそびの記憶

2022.6.17(金) ▶ 9.5(月)

# あそびの記憶

いわさきちひろは、生涯、「子ども」をテーマに描き続けた画家でした。そのなかには、あそびの情景をとらえた作品も少なくありません。1950年代から60年代に多く手がけた、「キンダーブック」など幼児向けの月刊誌の仕事では、息子やその友人たちもモデルにしなが、集団であそぶ子どもたちの姿をいきいきと描き出しました。その一方でちひろは、ひとりで自由に思いをはせ、あそびに熱中する姿も描いています。

本展では、絵雑誌やカレンダーなどに発表された絵を中心に、あそびの情景を描いた作品をピエゾグラフィで紹介します。「はないちもんめ」や電車ごっこ、虫捕り、凧あげ、しゃぼん玉、あやとり……夢中になって楽しむ子どもたちの姿は、幼い日のなつかしい記憶を呼び覚まします。子ども時代のあそびの思い出とともに、ちひろの絵をお楽しみください。



しゃぼん玉をふく少女 1969年

【ピエゾグラフィとは】 ちひろ美術館では、現時点でのちひろの作品の色合いや風合いをデジタル情報として保存し、最新技術の「ピエゾグラフィ」という方法によるデジタルアーカイブと「ピエゾグラフィ作品」としての複製に取り組んでいます。耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現は、繊細な水彩画の再現性を飛躍的に高め、明るい光のもとでの絵の鑑賞を可能にしました。

## 手仕事



Echizen-shi  
JAPAN

伝統的工芸品や越前おろしそばなど、越前市観光のお問い合わせは

観光・匠の技案内所 ☎ 0778(24)0655

福井県越前市府中1丁目2-3 JR武生駅前センチュリープラザ1F  
echizen-tourism.jp (運営：一般社団法人越前市観光協会)



越前国の中心地として栄えた武生(現・福井県越前市)のまちなか、職人町風情が漂う旧北陸道から少し東に入った路地に面し、静かに佇む古い町屋があります。そこはかつて、質・古着屋が営まれていた商家。この家の離れで、のちに日本を代表する絵本画家となる、いわさきちひろは生まれました。ちひろの母・岩崎文江は当時、武生町立実科高等女学校の教師として単身赴任していました。やがて、ちひろを身ごもると、お産のためにこの家の離れに移りました。そして1918年12月15日の雪の朝、ちひろはここで産声をあげたのです。今も往時の暮らしの面影を残し、静かな時が流れるこの町屋を、「ちひろの生まれた家」記念館として公開しています。



## 「ちひろの生まれた家」記念館

<http://chihironoie.jp>

【開館時間】 10:00~16:00

【休館日】 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始

【入館料】 一般 300円(高校生以下は無料)

※一般団体(10名以上)200円

※高校生以下の団体(5名以上)の引率者(1名)無料

※障害者手帳をお持ちの方150円

※障害者の引率者(1名)無料

【アクセス】 (電車) JR武生駅より、徒歩約10分

福井鉄道越前武生駅より、徒歩約15分

(お車) 北陸自動車道武生ICより、約15分

駐車場あり

※当館では、新型コロナウイルス感染症予防・拡大防止を考慮した運営に努めています。ご理解、ご協力をお願いいたします。

〒915-0068 福井県越前市天王町4-14

☎0778-66-7112